Monthly Contents（月刊誌の主な特集記事）

ザ・クインテッセンス／2012. 9月号

○インプラント周囲炎を非外科的処置により確実に治癒に導く抗菌療法によるHA インプラントの可能性（石本光則）

＊インプラントが喪失する原因の１つとして、インプラント周囲炎が挙げられる。力による炎症と感染による炎症のコントロールが必要となるが、本稿では感染が原因であるインプラント周囲炎の非外科的対処法による概念と手法について解説している。抗菌薬の適応法や口腔内の局所へのアプローチの仕方を症例を交えて紹介している。インプラント周囲炎に対する一つの対応法として参考になるだろう。

○子どもたちをう蝕・不正交合から守る　⑤初期う蝕の診断（須貝昭弘）

＊フッ化物配合の歯磨剤が一般的に使用されるようになって、エナメル質に実質欠損を生じるのはかなり蝕が進行した結果であることが多い。視診だけのう蝕の診査は、裂構内の初期う蝕を見逃す可能性がある。筆者は裂溝のタイプ別分類と対応、裂構内の診査法、加えて隣接面う蝕の診断の手順などを解説している。本稿は連載で、次号は象牙質まで進行した場合の歯髄保存法を予定している。

日本歯科評論／2012. 9月号

○特集 咬合器を臨床で活用しよう！――半調節性咬合器による臨床応用のヒント（鈴木 尚　牧 宏佳　他）

＊咬合器使っていますか？技工士さんにまかせっきりにしていませんか？最近技工をする歯科医師が減ってきています。しかし日常臨床では咬合の問題を抜きには語れません。本特集ではなぜ咬合器が必要なのか、そしてどう使いこなすかなど詳しく解説しています。もう一度半調節咬合器について学んでみませんか？

○高齢者を診る時の新たな視点――木を見て森を見ず，歯を見て口を見ず！？ 第９回　生命を支える歯科医療（五島朋幸）

＊「往診」と「訪問診療」は違います。往診とは突発的なトラブルに対応する医療であり訪問診療とは通院困難な者に対してその合意を得て定期的に医師・歯科医師が訪問して診療を行なうものといえます。筆者は訪問診療を通してさまざまな経験をしそしてたとえ治すことができなくてもできることはあると気づきます。口腔ケアを通して命をも支える医療を実践されていることがよくわかります。

デンタルダイヤモンド／2012. 9月号

○実践歯学ライブラリー　歯牙破折の分類・診査・診断・マネジメント ―世界の標準的なガイドラインと歯内療法専門医の臨床（石井　宏）

＊歯牙破折における臨床上の問題は、その診断の困難性と、歯牙破折と診断された際の治療法の少なさである。本特集では、歯牙破折の分類および種々の診査法を紹介し、それによって、的確な診断を行い、その診断をもとに世界の標準的なガイドラインに照らし合わせた治療法を詳しく解説しています。日常臨床で頭を悩ます「歯牙破折」、ご一読の価値はあると思います。

○顎関節と咬合に強くなろう――毎日の臨床が楽しくなる⑨ フェイスボウトランスファーが咬合へ及ぼす絶大な効果を知る（小出　馨 他）

＊フェイスボウトランスファーは左右顎関節の顆頭に対する上顎歯列の三次元的位置関係を咬合器上に再現する作業であるが、その有用性は一般にはあまり理解されていない。筆者らは、フェイスボウトランスファーを行う場合と行わない場合を比較し、生体と咬合器の開閉口運道路および顆路に誤差が生じることを検証している。また、フェイスボウの種類と特徴、実際に操作を行う上での勘所も書かれている。

歯界展望／2012. 9月号

○歯科医が知っておきたい薬剤最新事情　１抗菌薬、鎮痛薬を上手に使おう（岸本裕充　兵庫医科大学歯科口腔外科学講座）

＊抗菌薬の使用目的は「感染症の消炎」と「術後感染の予防」です。保険適用上、歯科で使える抗菌薬は限られていて、選択の余地は少ない。既存の薬剤をうまく使いこなす事を考え、明日からの臨床に活かしたい。そのヒントがいっぱい詰まっていると思われる。ひとつの例として、術後感染の予防としての抗菌薬の使い方がある。前の日から朝、昼、晩と規則正しく服薬することは局所の耐性菌を増加させることから、行うべきではない。手術時に薬功を期待するなら、術前４５分に２倍量服用が効果的だそうだ。説明を読むとそうだ、あたりまえだ。というようなことも多く、きっとお役にたつと思います。